

東濃農林事務所の普及活動状況

令和8年6月

多様な主体の参画促進

■野菜・みずなみ農ある暮らし実行委員会 アグリパーク重点推進モデルが取り組みスタート

6月9日（火）、「みずなみ農ある暮らし実行委員会」による野菜栽培を学ぶ実践コースが、きなあた瑞浪に隣接する農地で始まった。

農産物直売所「きなあた瑞浪」の将来の新規出荷者確保のため、瑞浪市、農業委員会、JAとうと、きなあた瑞浪及びきなあた瑞浪出荷者協議会の5団体で実行委員会を設置し、アグリパーク重点推進モデルとして、野菜づくりの相談から出荷まで、一貫した支援を行う取り組みである。

実行委員会は、農家講師から細かな指導を受ける実践コースを新たに設置し、参加希望者を掘り起こしてきた。参加者3名が決まったことから、実習を行うほ場の額縁排水溝づくりを農家講師の指導を受けながら行った。

最初に、5mのメジャーを用い、歩数で距離感をつかんだあと、ほ場の全長を歩数で測り、歩数は農作業で有効なメジャーであることを学んだ。その後、参加者全員でヒモを張り、クワを用いて直線的な明渠を作った。

作業終了後、参加者に今後栽培可能な品目を提案し、参加者で選定してもらい、次の作業へ移行していくこととした。

農業普及課は、実行委員会のオブザーバーとして活動を支援し、新規出荷者の確保、協議会の出荷拡大とアグリパーク構想の具現化に向けた取り組みを支援していく。



【明渠設置作業風景】



【機械の操作方法の実習】

潜在力をフル活用した生産強化

■水稻 「こなゆきひめ」の生育調査開始

6月1日（月）、瑞浪市の（農）日吉機械化営農組合で作付けされた米粉用専用品種「こなゆきひめ」の生育調査を開始した。

「こなゆきひめ」は、岐阜県で育成された品種であり、粒度が細かく、製粉時のデンプン損傷が少ないという特徴を持つ。そのため、米粉パンやクッキーなどの加工に適しており、小麦アレルギーを持つ人にむけた、グルテンフリー食品としての活用が期待されている。

一方で、本品種は安定的な収量確保が課題であり、現地における適応性を確認し、栽培技術の改善につなげる必要がある。

農業普及課は、調査研究に位置付け、プロジェクトチームで生育や米粉の評価を調査し、技術改善につなげ、東濃管内への作付拡大を検討していく。



【生育調査の様子】